

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

当社は平成16年9月30日をもって、第76期の中間決算を行ないましたので、その概況をご報告申し上げます。

営業の概況

当上半期の電子部品市場は、アテネオリンピックの開催などを背景として、期初は前年度に引き続き順調に推移いたしました。しかし、期後半にかけては、高成長を続けていたフラットパネルディスプレイ分野などに一部減速感が見られました。

当社におきましては、生産革新運動を全社で強力に推進し、ローコストマニュファクチャリング体制のさらなる強化に取り組みました。

売上高は、プラズマディスプレイ関連製品や電池などが伸長し、前年同期比5.0%増の317億38百万円となりました。損益面につきましては、厳しい価格競争に加え、原材料の値上げによるコストアップ圧力が損益を圧迫しましたものの、コスト削減に努めました結果、営業利益6億74百万円、経常利益3億67百万円、中間純利益1億82百万円を確保いたしました。

中間配当につきましては、当社の財務状況を勘案し、見送らせていただきたいと存じます。

株主の皆様には誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。

次に事業別の売上概況についてご報告申し上げます。

なお、電子事業の各部門について、事業構造の変革にあわせて一部再編成しており、前年同期の数値に関しましても再編成後に置き換えて比較しております。

■電子事業

●ハイブリッドモジュール部門

プラズマディスプレイ用ハイブリッドモジュールは、プラズマテレビの需要拡大により大幅に伸長いたしました。液晶ディスプレイ用ハイブリッドモジュールは、連結売上高では前年同期を上回っておりますものの、パネルメーカーの海外生産に対応した体制をとりました結果、単体での売上高は減少いたしました。また、携帯電話用のVCO（電圧制御発振器）は、需要の減少により前年同期を下回りました。その結果、当部門全体の売上高は、前年同期並みの124億70百万円となりました。

●パワーシステム部門

スイッチング電源は、ストレージ用およびフラットパネルディスプレイ用が伸長しました。コイルデバイスは、液晶ディスプレイ用インバータトランスが増加し、前年同期を上回りました。なお、当上半期より新製品の積層チップパワーインダクタの量産出荷を開始いたしました。その結果、当部門全体の売上高は、前年同期比38.0%増の54億2百万円となりました。

●モータ部門

当部門は、デジタルカメラ用の小径モータが伸長いたしましたものの、プリンタ用ステップモータはDCモータへの置き換えによる需要減の影響を受け、減少いたしました。その結果、当部門全体の売上高は、前年同期比19.0%減の23億1百万円となりました。

●コンポーネント部門

当部門は、フェライトコアが国内生産終息の影響により前年同期を下回りましたものの、光通信部品、デジタルカメラ用圧電部品などの売上が増加し、全体では前年同期比6.4%増の40億45百万円となりました。

■電池事業

アルカリ乾電池は、国内市場は厳しい価格競争のなか売上高が前年同期を下回りましたが、北米向け輸出が大幅に増加し、その結果、当事業の売上高は、前年同期比17.6%増の75億20百万円となりました。

今後につきましては、デジタル機器を中心とした市場の拡大という方向は変わらないものの、フラットパネルディスプレイ市場の一時的減速や、原油価格高騰の影響による原材料価格の値上げなど、下半期の事業環境は予断を許さない状況となっております。

このようななか、当社はものづくりを根本から見直し、品質の向上、生産性の向上、コストダウンの推進により確実に利益をあげられる体質をつくりあげるべく、生産

革新運動に全力を傾注してまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月



代表取締役社長

杉本俊春